

FIM Asia Road Racing Championship 2015

ROUND2 Sentul.Int.Circuit, Indonesia

参戦報告書

- エントリー名 : TRICK STAR Racing
- 監督 : 鶴田 竜二
- ライダー/ゼッケン : 山本剛大 (#11)
兵藤龍之介 (#12)
- 開催日/サーキット : 2015年6月6日(土)~6月7日(日)
Sentul Int Circuit (インドネシア)
- マシン : カワサキNinja250
- 結果 : 山本剛大 レース1:決勝中止 / レース2 :決勝3位
兵藤龍之介 レース1:決勝中止 / レース2 :決勝9位

TRICK STAR Racingは、セントウルインターナショナルサーキットでのベースとなるマシンセッティングを探るところから始まる。



【6月6日(土) 予選】

Qualifying 14:40~15:10

天候:晴れ コース:ドライ 路面温度:59.5℃

#11山本剛大

プラクティスで施したセッティングが良かったので、更に進めたセッティングを施しスタートする。4週目に45秒871を記録しトップになる。

その後ピットインし残り時間が20分ほど残っていたが、翌日のフリー走行と決勝レースを2回を同じタイヤで走る事を見越して、走行を終える。他車のスリップストリームを利用せずに単独走行でのタイムだった。

#12兵藤龍之介

午前中のプラクティスで転倒してしまい、大切なセッティングに費やす時間を失ってしまった。まだ納得できるセッティングが出来ていない状況で予選が始まる。タイムアタックに入るがタイムが上がってこない。

12番手付近にランクされていたが、ピットインしフロントサスペンションをアジャストし再度コースインする。予選終了間際に各車がタイムアップし21番手に終わる。



【6月7日(日) 決勝】

決勝は山本剛大選手2番グリッドから、兵藤龍之介選手21番グリッドからのスタートになる。

Race1 天候:晴れ コース:ドライ 路面温度:44℃
9:45~ 12Lap

#11山本剛大

スタート後、ポジション争いに躍起になっているライダーを上手くかわしながら、1周目は6番手で帰ってくる。2周目に5番手にポジションアップ。3周目には3番手にポジションアップし、更にストレートで前車のスリップストリームから抜きトップに躍り出る。しかし4周目に他車が出したオイルにのって転倒してしまう。山本選手だけでなく同じコーナーで10台ほどが転倒し、レッドフラッグが提示されレースは一時中断する。山本選手は転倒後直ぐにマシンに駆け寄りピットに戻ろうとしている姿がモニターに映し出されていた。ピットに戻った山本選手は幸い怪我は無く、再スタートに向けてマシン修復に取り掛かる。右側が大きく破損していて、ハンドル・マフラー・ステップ・シートなど多くの部品が破損していた。修復中にオフィシャルから後5分でサイティングラップが始まりレースは7周に変更と告げられる。サイティングラップに出せる状況になったとき、決勝レース1は中止にするとオフィシャルから発表された。

#12兵藤龍之介

スタートが上手く決まりポジションアップし、そのポジションをキープしようと無理をしまい転倒してしまう。幸い怪我は無かった。

Race2 天候:晴れ コース:ドライ 路面温度:60℃
14:35~ 12Lap

#11山本剛大

路面温度が60℃とかなり上がり厳しいレースになると予想される。スタートは失敗してしまい、1周目は6番手で帰ってくるが2周目にはレースのファーストラップを記録し3番手にポジションアップする。転倒車が多くコーナーで黄旗が提示されていて、3周目から7周目まではトップ集団を形成していたが、黄旗が解除された8周目から山本選手が1コーナー進入でトップに立ちペースアップする。そのペースアップに着いて来れたのは2台で、3台のトップ争いに絞られる。山本選手の得意な4コーナーには、レース1で出されたオイル処理の後が残っており、マシン特性上、そのオイル処理の上を通過しながらアクセルを開けていかなければならなかった。オイル処理はされているがやはりタイヤが滑ってしまい上手く加速に繋がれない。またライバルと車重が10Kg重いレギュレーションでタイヤへの負担が大きく、更にセントウールインターナショナルサーキット特有の路面コンディションでも車重の違いでマシンへの悪影響が感じられる。それでもライバルから離れる事なく、更にマシン特性のストレートエンドでのスピードの伸びを生かして1コーナーではトップにポジションアップする。レースも残り3周となった10周目・11周目と1コーナーでトップに立ちライバルと競い合うが、僅差の3位でゴールする。

#12兵藤龍之介

スタートは失敗するが、1周目18番手で帰ってくる。2周目は12番手にポジションアップする。昨日、予選が終了したあとコースを監督・山本選手そしてメカニックと歩き、ラインやブレーキポイントの確認を行った。さらに朝のフリー走行で、山本選手が兵藤選手を引っ張り、ラインやブレーキポイントをレクチャーしていた。それが幸いしたのかアベレージタイムもアップしている。3~6周目まで12番手で走行するが後続を引き離し、更に先行するライダーとの差を詰めていく。7周目に先行するライバルを1台抜き、1台が転倒し戦列を離脱したことにより10番手にポジションアップ。7周目からゴールまで後続を抑え続け11周目に先行車が転倒し9位にポジションアップ。残り1周、執拗に迫ってくる後続車を抑えきり9位でゴールする。

【ライダー 山本剛大選手 コメント】**予選2位**

今回はタイヤを温存する作戦で前半にタイムを出しそのまま予選を終えました。予選がスタートしクリアラップが取れたアタック3周目、スリップが無い状況ながらも単独走行で45秒台を出しトップに立ちそのまま予選を終了しました。予選後半に抜かれて2位に落ちましたが作戦通りの予選が出来て良かったです。

Race1 中止

スタートはまずまずのスタートでしたがマシンの特性で加速の早いライバル3台に前に行かれました。1周目は様子を見ていたら他の2台にもかわされて6位まで落ちました。2周目に自己ベストを出して3位につけ、マシンにもかなり手ごたえがあったのでそのまま集団を減らそうとペースアップをしていったところ4周目の4コーナーに他車が撒いたオイルに乗り転倒、集団の中で自分の後ろにいた車両全てが転倒し赤旗が出ました。なんとかピットに戻り修復し再スタートの準備が整ったところでレース1中止がアナウンスされました。手ごたえがあり、チームも頑張ってるマシン修復を間に合わせてくれただけに残念な中止となってしまいました。

Race2 3位

レース1から気温・路面温度ともかなり上がり、かなり厳しいコンディションの中でのレースとなりました。スタートは失敗してしまい1周目は6位で帰ってきましたがレース1同様2周目にファーステストラップを出して3位まで順位を上げました。3周目から中盤まで黄旗は提示されていたこともあり集団が形成されていましたが、黄旗が解除されたところでトップに立ったりして集団のペースを上げたところトップ集団は3台になりました。ですが、レース2スタートして1周目からリアタイヤのスライド、コースのオイル処理により得意なコーナーが攻めれないということに悩まされておりトップ2台についていくのがいっばいいいっばいな状況でした。3位を走りながらいろいろな方法を模索しましたが、後半セクションで離されてしまうのが致命的で結局3位でチェッカーを受けました。

今回のレースは手ごたえのあったレース1が中止、レース2はコースコンディションや転倒の影響が出てしまい3位となかなか上手いかないレースとなってしまいました。ですが、長いシーズンこういう難しいレースもあると思います。その中で最低限表彰台に上がりポイントを積み重ねることが出来たのでよかったですと思います。次回のレースは日本ラウンドです。自分が育った鈴鹿サーキットでのレースです。誰よりも走っている鈴鹿サーキットで絶対に優勝、ダブルウィンを目標に頑張っていきます。今回もサポート、応援していただき、有難うございました。次戦もまたサポート、応援のほどよろしくお願いします。





【ライダー 兵藤龍之介選手 コメント】

予選21位

1番前からスタートし抜いてきたライバルについて行く作戦でしたが、なかなか抜いてくるライダーがいなかったの
で単独走行になりました。タイムが縮まってくるとフロントが切れ込んでなかなかタイムを上げる事が出来ず1度ピ
ットインしたのですが、あまり良くならずそのままタイムが上がらず予選21番になってしまいました。ですが、決勝
日朝のフリー走行で山本選手にコースラインを教えてもらいタイムがだいぶあがりました。

Race1 中止

スタートを成功する事が出来、5台ぐらい抜いたのですが3コーナーのブレーキングで失敗し転倒してしまいました。
ですが、赤旗でレース1が中止したので何とかリタイヤは、免れました。メカニックのおかげでマシンは治り本当に
助かりました。

Race2 9位

レース2では、さっきのように無理をせずに冷静に3コーナーを立ち上がり、1周目は7台ほど抜く事が出来ました。
11番手まで追い上げた時に目の前のマシンがエンジンブローしオイルが少しかかり、ブレーキが余り効かなくな
りました。それでも何とか10番手まで上がり最後の2周で9位争いをして何とかスリップで抜き9位になることが出来
ました。

まだまだ全然納得のいかない結果ですが、これが自分の今の実力だとわかりました。次のレースは鈴鹿サーキット
なのでたくさん練習をして次のレースでは、表彰台に上られるように頑張りたいです。最後に応援してくれたファン
の方 マシンを治してくれたメカニックの方 そしてチームの方 本当にありがとうございました。





【監督 鶴田竜二 コメント】

今回インドネシアラウンドには特別な思い出がありました。
タイトル争いをする上でもそうですが、勝ちたいレースでした。
2011年からインドネシアを訪れアジアに進出するきっかけをくれた国だと思っております。
また沢山の応援してくれる方々の為にも是非勝利を勝ち取りたかったのですが結果は3位となってしまいました。

チームの思惑とは違い第1レースのオイルに乗って転倒してから少し悪い流れになってしまいました。
壊れたマシンを修復したのですが、レース2では通常よりスピードが出なくなっていたことと、第2レースを迎えるまでに他のクラスでも大量のオイルがコースに飛散してしまい、山本選手の得意とするコーナーが攻めきれない状況でした。

これにより、ストレートの伸びが活かしきれずトップに立つも、相手HONNDAのマシンは10キロ軽量で排気量が40ccも上回っておりそのマシンには今回差し込む隙が見つけれなかったです。

特にタイヤに与える影響は多大であり予選、決勝前プラクティス、レース1、レース2、4走行全て1セットのタイヤで通さなければならない状況では車重10キロ差は致命的だと私は思います。

こうして釈然としない結果となってしまいました。そんな不利な状況でも山本選手はチャンピオンシップを戦う上で素晴らしいトップ争いを繰り広げ、しっかり表彰台に上ってくれたので最善の仕事をしてくれたと思います。

ゼッケン12番 兵藤選手は前回のトップグループの走りを見て早くそこに追いつきたいという焦りから、ミスをしてしまいました。

はじめて自分のマシンで走るセントウールサーキットなので毎セッション大事に走らなければならなかったのですが、3回目のプラクティス開始1周目で、勢い余ってコースオフし転倒してしまいました。

その影響から予選順位21番手と波に乗れず結果も9位と前回のレースからすると本人もチームも納得のいかない結果となってしまいました。

しかし、彼はトップグループで走る為に何が足りないのかを自分自身考えトライした結果なので仕方ないと判断します。

今後も彼がいち早くトップ争いが出来るようなライダーになってくれる事を期待したいと思います。

その為にチームは全力を尽くして行きたいと思います。

次回は我々のホームである鈴鹿戦です。

タイトルを争う上でもとても大事なレースになる事はわかりきったことです。

勝利に向けチームは総力を結集し、取り組んで参ります。

最後になりましたが、今回も私達チームを支えて頂いたパートナー企業であるGTA様はじめ各スポンサー様、暖かい応援を頂いたファンの皆様、チームスタッフ、インドネシアスタッフ、関係者様に感謝しております。

ありがとうございました。